

メッセージアウトライン

I テモテ 6 : 11~12「信仰の戦い」

テモテはパウロの第2回伝道旅行の時、小アジアのルステラで福音の同労者に加わった。おそらくパウロの第1回伝道旅行の時、信仰に入ったと思われる。彼の父はギリシヤ人であったが、祖母と母はユダヤ人で熱心な信者であった。→使徒16:1~3、IIテモテ1:5
彼はパウロと行動を共にするようになった時は、まだ若い青年であったと思われる。パウロは彼のことをしばしば「わが子」「愛する子」と呼んでいる。→Iテモテ1:2、IIテモテ1:2、2:1 パウロとテモテは親子ほど年が離れていたであろう。

[11]「神の人」…神の器として用いられる人のこと。→申命記33:1（モーセ）、Iサムエル6（サムエル）

「これらのことを避け」…直接的にはすぐ前で語られた金銭を愛することを指すが、それも含めて、さらに広く6:3~10で言われている偽教師たちの教えやその生き方全体のことと考えられる。つまりそのような生き方とは反対の生き方をしなさいというのである。それはどのような生き方か。ここでパウロは6つのものを熱心に求めよと言う。

①「正しさ」…生活全般における正しいふるまい。②「敬虔」…神をおそれ敬うこと。③「信仰」…神に対する信頼。④「愛」…神が人間に示してくださった愛。→ヨハ3:16、Iコリント13:4~8a ⑤「忍耐」…重荷の下で耐え忍ぶ、とどまる。⑥「柔和」…感情が温和であること、とげとげしくないこと。

信仰者はこれらのものを、熱心に祈り求めていくことが大切。→ルカ11:9~10

[12]「信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい」

これは直接にはテモテに対する勧めであるが、それはまた私たちすべてのクリスチャンに対する勧めでもある。信仰者はさまざまな戦いを戦わねばならない。

①この世との戦い…世の人が平気でやっていることも信仰のゆえに同意しないことも出てくる。偶像礼拝、世俗的な流れ…。

②肉との戦い…「肉」とは生まれながらの人間の持っている神に逆らう罪の性質、またその生き方。パウロの告白→ローマ7:18~24 その解決→ローマ8:10~14

③不信仰との戦い…聖書には多くの例が見られる。→ヤコブ（創世記42:36~38）、出エジプトの民（出エジプト32:1~4、民数記11:4~10、14:2~4、16:13~14）、ヨブの妻（ヨブ2:9~10）

④異端との戦い…何が正しくて何が間違っているかよく知っておくことが大切。

→Iテモテ6:3~12、ユダ3~4、Iヨハ2:22~23、4:1~3

信仰の戦いを戦い、この地上の生涯を走りぬいた時に、私たちは神のもとに喜びを持って帰り、神とともに生きる新しいいのち、永遠のいのちを文字どおりいただく者となる。テモテはこの信仰のための戦いに神の人、神の器として召され、選ばれ、多くの証人たちの前でりっぱな告白をした。この告白とは口先だけのものではなく、彼の全人格、全生活をもってする信仰の告白のことである。